

山行報告書

山行管理部

教育部 荒島岳 1月18～19日 CL高桑 SL家納 TC木村 参加5名
1/18 JR大阪駅前09:30 → 勝原スキー跡登山口駐車場14:30 テント設営
1/19 起床03:30(朝食及びテント撤収) → 勝原スキー跡登山口05:20 → シャクナゲ平08:30 → 山頂10:05着10:25発 → シャクナゲ平12:30 → 登山口13:45 → 大阪19:30 解散

春山に向けての雪上訓練のため、当初氷ノ山を計画していたが暖冬で訓練に必要な積雪がない状況下で、中止も含め検討した結果、豪雪地帯にある荒島岳に変更した。幸運にも晴天に恵まれ、山行計画書どおりの時間で登頂出来たことが良かった。積雪も12本アイゼンを使用しての歩行練習が実施出来た。

今回雪山やテント泊初参加の人もおり、慎重に事を進めたがすべてが、メールでのやりとりだったので、参加者会議の重要性を改めて感じた。

(家納 記)

公開山行 千代山(五月山)～松尾山 1月26日

CL伊藤・SL森野・川井・横山 参加者35名(うち一般2名)
阪急大阪梅田(8:20)⇒池田(8:38) 池田駅8:45～9:05 五月山公園(点呼、体操他)9:25～9:40 都市緑化植物園9:45～ ひょうたん島コース～10:40 日の丸展望台10:55～10:58 千代山頂上(ピストン)～12:25 松尾山12:35～桜谷コース～13:05 ハート広場(クラブ紹介)13:20～14:15 桜広場(解散)

天気予報では直前まで雨。それでもたくさんの方の申し込みがあり、驚きです。五月山の頂上を踏んでいただけたこと、千代山という名前、松尾山という名前を知って頂けて良かったかと思います。やはり、全員が無事に下山できたこと、お天気に恵まれたこと、皆様のおかげと感謝です。

(伊藤 記)

土曜山行 赤坂山 2月8日 CL松本光一 SL安田正恵 参加19名
JR大阪駅7時30分—マキノ駅9時26分—マキノ高原さらさ10時—登山口10時30分—武奈ノ木平11時55分—栗柄越13時—マキノ高原さらさ15時着

マキノ駅に降り立つと雨模様でしたがマキノ高原に着くと雨はやみ、一面雪景色登山口付近は気温、雨の為ぬかるみ状態で歩きにくく武奈ノ木平付近になると結晶の細かいキュッキュッと鳴る雪質に変化。栗柄越を目指していると赤坂山山頂には、どんよりと厚い雲が不吉な予感です。栗柄越を過ぎたあたりから突然の強風と霰が、このまま進むと危険と思い、止む無く下山指示。何度か、この季節での山行はする

みたいで、なかなか山頂まで行けなくて今回も山頂は時間的にも天候でも断念し山行の指示等も反省材料の多い山行でした。
(松本(光)記)

自然保護部 探鳥会・淀川(牧野～枚方) 2月9日 CL 目加田 SL 井 参加 14名
京阪牧野駅 9:00～9:15 淀川河川敷～12:20 昼食 13:00～15:00 鳥合せ 15:20 解散
時折、雪がちらついたり冷風が吹いたが、概ね晴天下での観察会でした。
スタート間なし、淀川河川敷に出るまでの穂谷川でカワセミを見つけた。探鳥会に不可欠の人気鳥を観察できたことで、CL 初体験の重圧から解放されました。淀川河川敷の草むらで、シロハラ、ホオジロ、カワラヒワなどを、磯島付近の池でコガモ、カルガモ、ヨシガモなどを、通称「野鳥通り」では残念ながらベニマシコには出会えなかったがイスカを観察。

川のカモ類、オオバン、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワアイサなどに望遠鏡の焦点を合わせていると、視野の中を縦横無尽に飛んでいる鳥がいた。SL にイワツバメと教えられる。

期待の猛禽類ではミサゴを川の中州で SL が発見。望遠鏡でじっくり観察できた。私は見逃したが、チョウゲンボウも最後に観察。ガンカモ科 8、ミサゴ科 1、ワシタカ科 1、ハヤブサ科 1、アトリ科 2、その他 28、合計 41 種を観察。
架橋工事や樹林帯の伐採で数、種類が減ったとは言え、水辺の鳥と山野の鳥を同時に観察できる興味深い場所であると再認識した。
知識も経験も乏しい、未熟な CL のおぼつかない先導について来て下さりありがとうございました。
(目加田 記)

ターブルドート山行 風吹岩と観梅 2月16日

L 木村佐知子 SL 石野明子 参加 8 名(うち一般 0 名)

阪急蘆屋川駅 8:25⇒会下山遺跡經由蛙岩 9:15⇒風吹岩 10:30

金鳥山經由保久良神社(観梅) 11:45⇒岡本神社(観梅) 12:15～12:50

⇒阪急岡本駅 13:05 解散 7.5 km

雨予報のため参加申し込みは少なく当日不参加連絡もあって 8 名参加
雨 80%ということで打越山は止め大幅にコースカットを承認していただき、山行開始いたしました。

保久良神社⇒岡本神社(観梅の見事さと香しいさにほっこりして帰路に早めにつき
ました)
(石野(明)記)